

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092000037		
法人名	医療法人 裕紫会		
事業所名	グループホームあがら花まる	【ユニット名:】 あがらユニット	
所在地	和歌山県御坊市藤田町藤井2118番地の6		
自己評価作成日	平成24年2月1日	評価結果市町村受理日	平成24年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3092000037&SCD=320&PCD=30
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成24年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①「出来ることは自分の力で」自分でできることの「喜び」「自信」を持ってもらえるような支援を心がけている。</p> <p>②入居されている方、スタッフ皆が地域の一員として受け入れてもらえるよう、地域の行事に参加したりしながら交流をしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>静かな環境の中にある平屋作りの地域密着型複合施設内のグループホームである。地域との繋がりを大切にし、高齢者、認知症ケアの拠点として地域に開かれた施設として、ボランティアの訪問など地域住民の協力も得られている。家庭の延長として生活できるよう個々に合わせたケアを提供している。特に食の楽しみを大切に、メニューも職員と一緒に考え、買い物、準備、片づけなどそれぞれの持っている力を発揮できるよう取り組んでいる。市との協力関係も築かれており、ケアの向上に向けて前向きな姿勢で臨んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設の理念として、住み慣れた地域と気心の知れた人たちとのつながりの中で“あなたがあなたらしく”ある暮らしを一緒に目指して行きますとし、朝の朝礼時に理念と理念を実践するための行動指針を確認しケアに就くようにしている。	複合施設の理念とは別に独自の理念を作っている。理念と行動指針を携帯し、毎朝朝礼時に黙読しケアに生かしている。又、月間目標を決め振り返りをしつつケアに生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	回覧板を回してもらい、地域の行事を把握し積極的に参加するようにしている。 近隣の小学校、幼稚園等との交流も積極的に行っている。地域のサロンやサークルへの誘いも時折あり参加するようにしている。	複合施設全体が自治会に加入していて地域の清掃や行事にも参加している。地域のサロンに参加する入居者もいる。市の認知症待策モデル事業の拠点となり、地域の人対象に認知症の人へのこえかけ訓練を実施した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政や地域包括支援センターの力を借り、地域の方々に介護や認知症の啓発を行っている。 また、近隣の小学校へは、総合学習の一環として行われた車椅子体験の協力を行ったり、認知症サポーター養成講座を開講し高齢者を地域で支える町作りを目指している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容や取り組み状況を報告しているが活発な意見交換はまだ不十分である。 会議で利用者が参加できるお花見やイベントを紹介してもらったり、また非常災害時の応援体制も話し合い体制を整えている。	複合施設内のサービス事業所全体で行なわれ、区長、民生委員、市の担当者、包括支援センター職員、家族等が集まり、意見交換し、地域の認知症ケアの発信地としての話し合いも持たれている。	利用者主体のケアの場であることから、無理のない形で、部分的にでも、入居者も交えて会議を行なうことが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設の透明性を図るためにも市への報告や相談を出来るだけ足を運んで行うようにしている。また、施設への苦情や相談については市と相談しながら対応するように努めている。	担当者とは日頃から報告や相談をしており、協力関係が築かれている。共にサービスの向上を目指して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の理解を深める為、勉強会やマニュアルの作成をして周知活動に取り組んでいる。 また、そういった外部研修があった際は、積極的に参加している。特に言葉の拘束の面は、日頃からミーティング等で話し合い防止に努めている。	研修を通して理解を深め身体拘束をしないケアを心がけ、口頭での拘束もないよう注意している。ケアカンファレンスで話し合い、必要性が認められたときのみ、マニュアルに沿って実施することとなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の勉強会やマニュアルの作成をして周知活動に取り組んでいる。また、そういった外部研修があった際は、積極的に参加している。特に言葉の虐待の部分は、日頃から話し合い防止できるように努めている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修会に参加し、ある程度理解できているが、職員には、研修会等の参加を啓発し理解促進することができていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書・契約書をできるだけわかりやすく説明し、後に疑問点があった場合はいつでもご連絡いただくように伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者に関しては、日々の会話の中で、意見や不満、苦情や思いを聞き取り、それらを職員間で共有し解決できるように話し合っている。ご家族に関しては、面会時や何らかの用事で電話連絡をした際に、意見等の聞き取れるように心がけている。玄関前には、意見箱を設置している。	意見箱が設置されているがほとんど利用されていない。家族の来訪時に話が聞けるように心がけている。ケアプラン更新時に家族と話し合う際に意見を言ってもらえることもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の会話や申し送り時に各職員からの意見の吸い上げを行ったり、個別に面談を行い運営に関する事や現場サイドとしての提案を聞く機会を設けている。	休憩時を活用しミーティングをしていて、日常的に職員が意見を表しやすい環境である。各ユニットでの職員意見は2週間に1回行われている管理者会議で検討し運営に反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夏季、冬季賞与は各職員に自己評価をさせ、また管理者が個々の考課表を作成し、賞与額に反映させるようにしている。全職員の勤務状況、仕事内容の把握に努めているが、全員に向上心を持って働けるようには至っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を掲示したり、個々に研修を受ける機会を設けている、また研修受講の希望があれば、勤務変更も検討している。職場でのOJTは不十分であると考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が開催しているケア会議に参加したり、外部研修への参加を促し、同業者と交流できる機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはセンター方式を活用し本人の不安に思っていることや困っていること、要望等を聴きとり職員間で共有しておくようにしている。またこまめに面接をし信頼していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接や契約の際にご家族の希望や要望の聴き取りをするとともに、こまめに連絡を取り合い、信頼していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際は、本人、家族のニーズを分析し施設側として可能な限り柔軟な対応をとり、ご本人とご家族に対して対応をとっている。また、関係機関とも連携し、いくつかの選択肢を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、入居者のできる部分に着目しその方の得意な事を職員と一緒に協働しともに生活を楽しめるような環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームでの暮らしぶりを随時ご家族に報告し、ご家族の希望や思いを理解し、家族と一緒に支える為の協力関係を築けるように努めている。行事ごと等への参加も啓発し入居者と家族が一緒に過ごせる機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者のアセスメントシートから馴染みの友人や場所をピックアップし機会があれば出向いたりしている。 行きつけの喫茶店や美容室へも行けるようにご家族にもご協力をいただいている。	入居時に家族から馴染みの関係をしっかりと聞くようにしている。入居者が元住んでいた所へ共に出かけることや、行きつけの店におやつを買いに行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の中に冗談なども言いながら場を和まし、利用者同士会話ができるようさりげなく職員が間を取り持ち、よい関係性が築けるようにしている。共通の趣味や家事などを通じ自然と交流ができる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても困ったことがあればいつでもご相談して頂けるように伝えている。また別のサービスを利用した際は担当者との連携を図るようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの中で得た本人の思いをセンター方式に落とし込みご本人の希望や思いを共有し、できる限り希望に沿えるようカンファレンスなどを通してご本人の意向の共有に努めている。またご家族さんにも相談し協力できる部分はお願している。	センター方式を活用し、本人の言葉そのままを大事に考え、どんな生活をしていたのか、今何が必要か本人本位で話し合い、思いを共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にはセンター方式で情報を整理しカンファレンスを行い、その人の状態や思いや希望に沿って支援できるよう職員間で情報の共有を図っている。入所後もご本人やご家族から集めた情報をファイリングし、各職員がいつでも見返せるようにし把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の状態等を日々記録し把握に努めている。また、記録に関しては24時間を通して状態を観察できるようなシートを使用している。また、有する力など現状の把握には、センター方式を活用しその人の総合的な把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃、入居者、そのご家族との関わりの中で得た情報やケア者が気付いたことをカンファレンスの場で話し合い、関係者みんなでケアプランの作成を出来るように努めている。	家族、本人の希望も聞き、職員間で話し合い、現状に即したきめ細やかな計画が作成されている。変化があれば話し合っ、必要に応じて変更している。モニタリングの内容に、やや分かりにくいところがある。	アセスメント、計画、モニタリングの流れの中で、一つ一つの計画内容を評価し次に繋げて行くために、わかりやすい書き方の工夫が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的な見直しを行い本人に合ったプランの作成に努めている。 本人さんの気づきは記入することができているが、支援内容、結果等が記録に残せていたことがある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズへの対応は中々できていない状況である。複合型施設であるため併設の事業所に友人ができたり、行事ごとにも参加できるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一部の入居者の中で入居前に行っていた、デイケアサロンや習い事に参加する機会が作れている。 馴染みの美容室やスーパーへの買い物を続けられている方も居る。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医に受診できるようご家族と協力しながら、安心して医療を受けられるよう支援している。また、受診の際は施設での様子を報告書や電話、FAX、又状況に応じては職員が同行するなど適切な医療を受けられるよう目指している。	入居時にかかりつけ医を決めており、受診は家族で行なっている。その際報告書を渡し必要時FAXや電話も使い情報の交換をしている。急変時や説明が必要な時は職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の訪問看護ステーションとの契約により毎日連携を図っている。情報や気づきがあれば相談できている。また受診に行かれる際や主治医に報告書をおくる際にも相談して意見をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医師との情報交換や地域医療連携室と連絡を取り合い、かかりつけ医とも退院に向けての相談をする中で、退院後も施設で安心して過ごせるように考慮している。また本人さんの不安を軽減させるためにも、頻りに面会するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族やかかりつけ医等と話し合う場を持ち、話したことを書面で残すようにしている。ご本人やご家族の意向を尊重し、終末期に向けてのあり方として、かかりつけ医、担当と連携を図りながら看取り指針をたてることとしている。	入居時に看とり指針の説明をしている。急変時、重篤時はかかりつけ医、家族、関係者と話し合いを持ち、看取り指針の中で方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し職員が閲覧できる所に設置している。また内部研修で心肺蘇生法やAEDの操作方法についての勉強をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回消防訓練を行っている。その内1回は消防職員に来ていただき、評価を受けている。 ご近所の方々とも話しをしご理解をいただき非常災害時の協力体制連絡網を施設内に掲示するとともに地区のハザードマップも設置している。	入居者も参加し、昼間に夜間設定も入れ年に3回行っている。非常災害時連絡網を作成し、近隣の住民も交えた防災の体制が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を保ちながら誇りやプライバシーを損ねないように心がけている。プライバシーに関することは他者に話さないように職員に周知徹底をしている。入室へ入室する際は必ずノックをするなど当たり前のことはきちっとできるように努めている。	プライバシーを大切にし、個人を尊重した態度で接している。誇りを損ねないよう呼称は名字で呼ぶ事を基本にしているが本人の希望があれば希望に添っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事メニューを決める際希望を聴いたり、衣類等を自分で選んでもらうなどの支援を行っています。「どうします。どちらにします。」という言葉を使いながら本人の思いを反映させたり、自己決定できる支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やお手洗いは、重なるとことがあり本人のペースに添えないことはありますが、その他はできる限り希望に沿えるように努めている。また、その人のペースに沿った支援をするように行動指針を下に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人が好んできた服や気に入っている小物を持って来ていただき、普段から身につけてもらったり、外出するときは一緒に選んだりしている。 入所前の習慣に合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立はできる限り入居者の希望を聴くように心がけていますが、中々希望を聴き取れず、アセスメントシートから好みのものを抜粋するようにしています。 盛り付けや下膳を一緒に行っている。	写真入りメニューで献立を選んでもらっている。一緒に買い物、準備、盛り付けや後片づけを行い、個人の意志や持てる力に合わせ支援している。職員と入居者と一緒に楽しく会話しながら食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつなど季節の物をお出ししたり、飲み物も多種多様な物をご用意しています。喉が渇いたときにいつでも飲めるようカウンターにお茶を置いている。病状に応じて飲み物も工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各個人の能力に応じ、朝・昼・夕の口腔ケアの見守り、声かけ及び介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、こちらからさりげなくトイレへの誘導を行えるよう心がけている。パットの使用もご本人の自尊心を傷つけないようにさりげなく手渡しし、排泄後の身だしなみも職員がそっと手直しするなどの支援を心がけています。オムツの使用に関しては、極力無くし、日中に至っては1名以外全員綿の下着を使用されている。	排泄パターンを把握し、日中はパッドも使用しながらできるだけトイレで排泄できるよう支援している。声掛けにも注意をし、さりげなくトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ下剤の服用をしないように、起床時に牛乳や冷水を飲用して頂いたり、便秘が続いている場合は腹部マッサージを行なうなど自然排便ができるように支援している。それでも便秘が続く場合は、下剤の服用や看護師に浣腸や坐薬での対応を取っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特に曜日を決めての入浴ではなく、ご本人の希望があれば入浴していただいたり、状態に応じた時間帯に入浴していただくようにしています。石鹸やシャンプーもその方にあわせて使用していただいている。	10時～17時に時間帯を設定しているが、希望により夜間に入浴する入居者もいる。隔日に入浴する人が多いが、拒む人には強要せず話をする中で無理なく促し、できないときは清拭も併用して清潔を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団や枕は、今まで使い慣れた物を自宅より持ってきて頂き使用している。居室の温度、湿度に気を配り、夜間も寝苦しくないようにエアコンで調整しています。夜間寝つきが悪い時などは、適宜足浴や温かい飲み物をお出しするなどし、落ち着いた環境を整えている。日中もその時々に応じ自室にて休んでいただいたり自室で寝るのが寂しいと言われる方が居れば居間の畳にて寝ていただくこともあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前、個別の用法、用量を確認した後、服薬支援をするようにしている。間違いがないよう何度も確認作業と服薬後の確認をリーダーが行うようにしている。薬の作用・副作用については各入居者別に内服薬一覧表を作成し、職員間でいつでも共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	四季折々にイベントを企画し、入居者に張り合いを持っていただけるようにしている。また、生活歴を活かし、料理の手伝いや裁縫等それぞれにあった役割をもてるように努めている。外出支援として、喫茶店に行ったり、適宜買物や近隣の海や山へ季節を感じられるようドライブに出かけたりしている。地域の文化祭に作品を出品するなどの目標をもって作品を作る機会もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、近隣の喫茶店やドライブに出かけたり、近くを散歩したりしている。入居者のお一人は、昔からの日課となっている散歩を現在も続けておられ、一日2回程度出かけられている。	各入居者が週に数回散歩に出掛けており、中には毎日の散歩が習慣の人もいる。希望者は喫茶店やドライブに出掛けたり、馴染みの店に買い物に行く事もある。	外出したがる人、歩行が困難な人も閉じ籠もりがちにならず、外気に触れ、体を動かしたり気分転換ができるよう、さらに配慮していくことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にてお金を管理されている入居者は2人おられ、その方々は購入の品物に対しての代金の支払は職員が付き添い行なっています。他の入居者に対しても、必要な物の買出しに対しては職員が同行し近隣の商店で買いたい物を購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望があれば、状況に応じ電話を貸し出ししている。また、ご家族からも定期的な電話もありご家族とのやり取りができています。手紙や年賀状が届くこともあり一緒に読むようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓にはカーテン、ブラインドを設置し日の光が入りすぎないようにしている。浴室、トイレには入居者が作った暖簾を取り付け、場所が分かり易いように工夫している。	入居者手作りの暖簾もあるが、装飾品等はあまり見られず、住まいとして寛げる雰囲気は薄い。構造上の都合で片方のユニットの居間の窓が日中もカーテンで閉ざされ閉塞感がある。ユニットの中での可動域が狭く畳のスペースは殆ど活用されていない。	住まいとして考え、壁の飾りなど柔らかい家庭的な雰囲気のある共有空間としての工夫を期待したい。ゆったりくつろげるスペースや思い思いに過ごせる空間の確保が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の一角に畳のスペースを設けていて、洗濯物を畳んだり、手芸をしたりされている方も居る。共用空間には独りになれる場所はないが、仲の良い方同士で過ごせるように居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が自宅ですべての物を入所時に持って来ていただき、馴染みの物(写真、タンス、テレビ、冷蔵庫、仕事道具など)を身近に置くことで、不安なく過ごせるように工夫している。	入り口に暖簾を掛けている部屋もあり、室内に私物や個々の馴染みの物も置かれているが、同じような雰囲気の部屋が多く、生活感があまり感じられない。	その人らしく過ごせる居室空間として、自分の部屋に愛着が持てるような個性のある雰囲気となるよう工夫される事を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	適当な場所への手すりの設置や段差がないようバリアフリーにし、転倒への予防をしている。また、居室への出入り口、浴室、トイレ、ユニットの出入りのドアは引き戸にし、安全に出入り出来るよう配慮している。		